

曲亭馬琴著

傾城水滸

傳第三編

歌川國安画  
上帙卷之上

13  
3087  
38



壹

夫水滸の原傳の宋朝の大將の梁山泊を攻敵するの是も前後の甚くはる中が雙鞭呼延灼が連環馬は最強一を尙徐寧が鈎鐮鎗のてれ破るのわさる未江の諸豪傑誰も亦と他不當の顔の閉戦の勝敗の猶一局の象棋のごとて大初呼延灼の凌振を専用して大砲を設せんと宋江が水泊の小寨を破り然けども凌振の漫功を貪りて小心の篤くはる智多星が三阮二張を使ふ及て凌振を虜にせり既に凌振が梁山泊の降すも主客猛可地首易て大砲を遂に復呼延灼が利あるを壁に象棋の賢るものその敵は馬を奪て其その敵を攻るが如し是も宋江又強る有徳而金錢豹子湯隆を虜に必勝し便軍も呉用が智略の時遷をて徐寧の兜を偷たる策巧る看官のみて時遷が彼兜を偷て徐寧を誘ふを知るのも実の宋江呉用等が徐寧を偷むるの思は大凡是等の奸猾詐謀の君子のめは所るる也則是宋江等のの時を磨鬼の在る是事か

評中惡の時ふといはる後忠ま幸るぬか彼金聖敷との漢の宋江百八の初善中惡後忠の三等ありと悟らざればを評註の倘若人ふ口と極て宋江を評するもその奸惡を批するエヨも就中盧俊義が智多星を謀られて音の落草まるふ及び宋江が第一の倚子と俊義を譲り給るも憎むを甚く竊の全傳と文成易の宋江奸をの横議悪評他が如き水滸の作者の本意あるや予の亦あはるやある彼金評の非きとの鮮明き思へも寸楮は盡まらぬ異日暇ある折別小國字評を綴るゝその中の第五十回より下の軍陣の支甚まると然るも今亦是等の策子小曲々画小見ての女中松方見輩衆の厭るの事もある同の策子の第一作者の難義を信る故に這篇より闘戦の段に至る毎画を略して文も真の但原信と趣と聊も易きく左を右を綴り毎編作者の用心と看官の心を安んず

天保六年乙未春正月吉日新鐫 物の本作者馬琴みりり序

水滸の原傳





初節供  
 乃粽  
 乃  
 兜  
 兜

團  
 丸

相撲提草  
 韓藍



鏝梅  
 突ぬく  
 小馬  
 つかれ

鏝梅枝  
 除夜

大  
 車







小て大てこの...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...



...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...





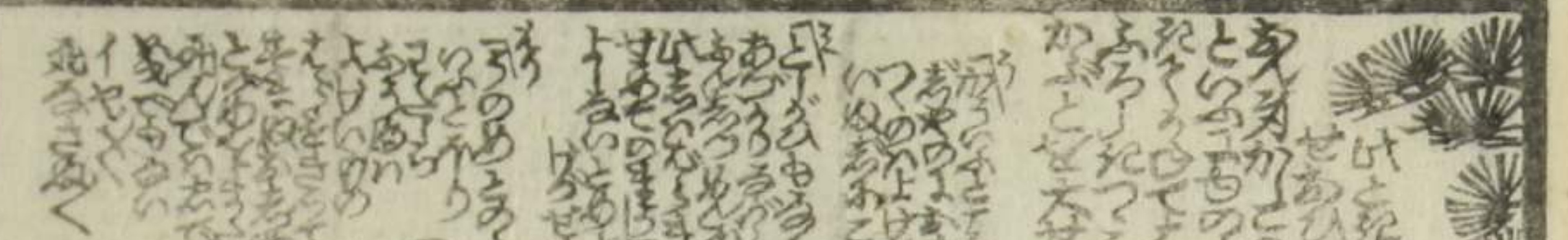


わけがふさふさのついでに... 井ぬきをまよと... せうのついでに... だうのついでに...



このついでに... 早... 左のついでに... 右のついでに...

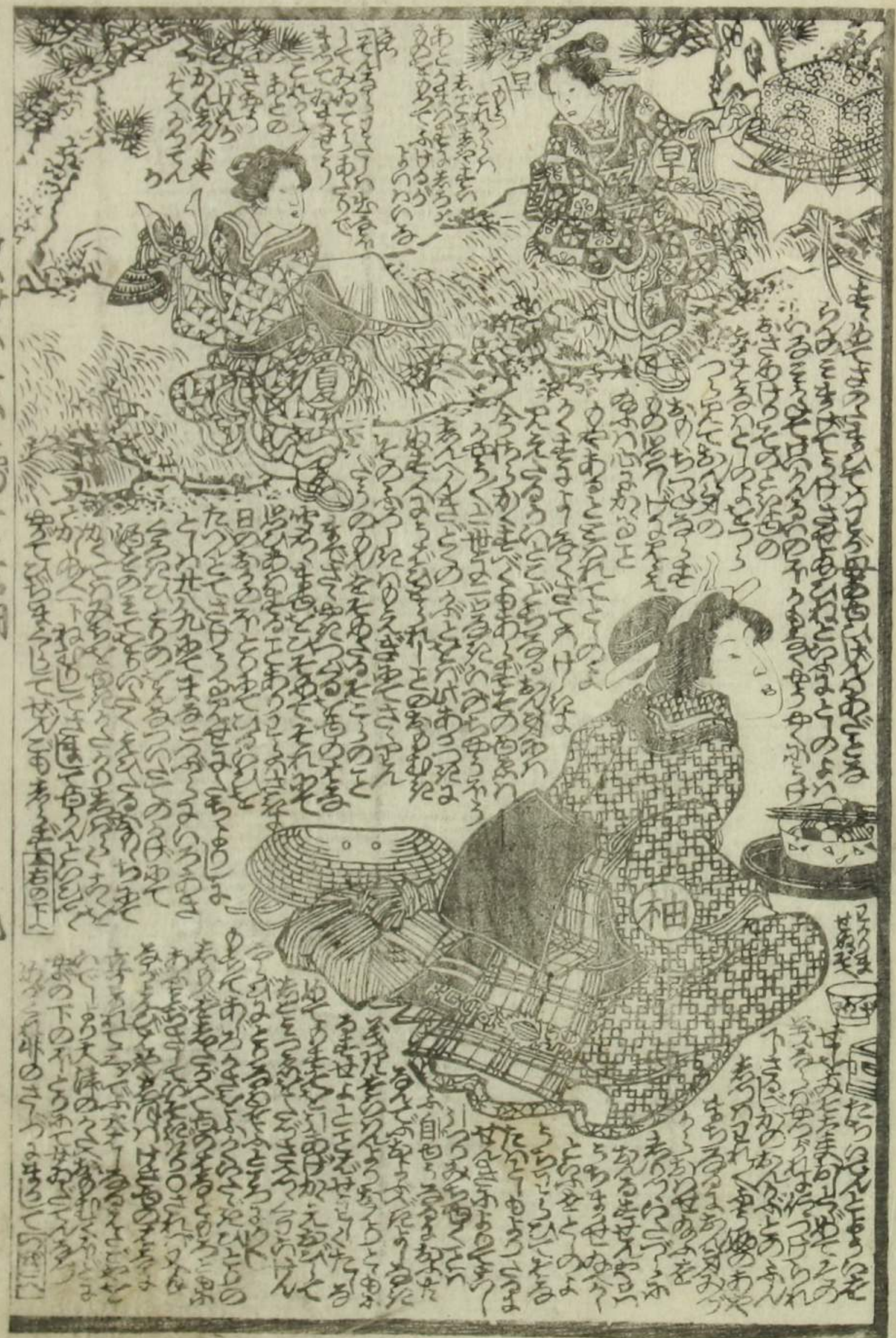
早... 左のついでに... 右のついでに...



このついでに... 早... 左のついでに... 右のついでに...



このついでに... 早... 左のついでに... 右のついでに...



Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or a list of items, surrounding the illustration. The text is arranged in vertical columns, with some lines crossing the illustration's boundaries.



Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or a list of items, surrounding the illustration. The text is arranged in vertical columns, with some lines crossing the illustration's boundaries.



Vertical text on the left margin of the page, possibly a page number or a reference.

か... (Top text on the right page, vertical columns)



... (Bottom text on the right page, vertical columns)

龍澤眞民著

迎福南鍼録

一名相宅半引草 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳奇

大本全五冊 繪入 平假名附 近刻

女消息往来

画入全一冊

曆日講釋

俳諧今四歌仙

全一冊

... (Main body text on the bottom of the right page, starting from '迎福南鍼録')

... (Main body text on the bottom of the left page, starting from '俳諧今四歌仙')

劉卜子先生著

... (Bottom text on the left page, starting from '劉卜子先生著')

大書抄書文  
大書の書文は、その筆跡の優劣、字の大小、墨の濃淡、紙の色の黄白、すべてに注意を要する。此の書は、その筆跡の優劣、字の大小、墨の濃淡、紙の色の黄白、すべてに注意を要する。

消息往来詳註  
高井蘭山述 全一冊

隅田川兩岸覽  
北齋筆 全三冊

江戸名所東鑑  
蕙齋筆 全三冊

江戸名所物見  
丘清長筆 全三冊

東海道  
花の都路 狂歌 全三冊

戲場頭微鏡  
黙々漢隱 全二冊

右五通り共格  
上品にして多分素に仕立 歩進物杯共格 至愛法本 此は凡

合則壽福二世相大鑑  
全一冊

奉獨枕昔古  
中本一冊 山櫻連々 逸軒抄舟作

教真草消息往来  
繪圖註入全一冊

# 傾城水滸傳 曲亭馬琴作

初編豊国画以下十編迄国安画  
士編貞秀画 第十四編十五編  
引つた近日出版

始めより

